

めでいかすどる
Médicastre



「何の花？」

鶴岡地区医師会

18年 7月号

『高齢者のリハビリテーションと介護予防』

東北大学大学院医学系研究科 肢体不自由学分野

教授 出江 紳一 先生

1. 高齢化社会とリハビリテーション

日本人の寿命は生物学的限界に近づいており、医学の目標は「延命」から「健康寿命」の延伸へとシフトしつつある [1]。もっとも、高齢者医療の目標として活動性の回復と維持が強調されたのは20世紀前半に遡る。その後様々な活動性指標（ADL 尺度）が開発され、「活動」はリハビリテーション医療の最も重要な帰結のひとつとして研究されてきた。

リハビリテーション医療の介入として、脳卒中などの急性発症疾患に対する回復モデル、小児疾患に対する発達モデル、そして慢性活動性疾患に対する難病モデルがある。高齢者のリハビリテーションはどこに位置づけられるのであろうか。容易に生じる廃用症候群からの「回復」、老化という「逆発達」、そして慢性的経過をたどり根治が困難な「老年病」のマネジメントという複数の視点が必要である。

2. 老年症候群

老年症候群は相互に関連する多く病態の複合である。要介護状態の原因調査によれば、60歳代後半ではほぼ半数が脳卒中によるものであるが、その割合は年齢とともに低下する。一方特定の疾患によらない衰弱は年齢とともに増加する。80歳代前半で半数、90歳以上では三分の二が衰弱・廃用症候群に起因する寝たきりである。廃用性の機能低下から要介護状態に陥ることを予防するためには、継続的かつタイムリーな介入が必要である。

3. 脊柱変形と姿勢異常

圧迫骨折にともなう脊柱変形は、円背、凹円背、全後弯、亀背などと分類される。脊柱後弯変形を代償して立位姿勢を保つために股関節は過伸展、股関節伸展で代償できない場合に膝関節が屈曲する。立位姿勢を保持するための脊柱起立筋への過負荷、および股・膝関節アライメントの変化は、それぞれ腰背部痛、股・膝関節痛の原因となる。

4. エビデンスに基づく転倒・骨折の予防

日本では1年間で在宅高齢者の2割が転倒を経験し、転倒者の1割が大腿骨近位部骨折（頸部骨折あるいは転子部骨折）を起こしていると推定される。大腿骨近位部骨折の受傷理由の殆どは転倒である。

筋力トレーニング、バランス訓練、歩行訓練による筋力の増大や転倒率の低下が報告されているが、EBMの実践においては、対象の性質、介入方法、介入による有害事象に留意する必要がある。

ビタミンDは転倒リスクを減少させる [2]が、カルシウム・ビタミンD補充療法の骨折予防効果は結論に至っていない。ビスフォスフォネート系の骨粗鬆症治療薬は70歳代までの骨粗鬆症の女性の大腿骨近位部骨折を減少させる。

施設入所者や在宅支援などの大腿骨近位部骨折のリスクが高い高齢者を対象とした研究では、ヒッププロテクターは転倒回数に影響せずに大腿骨近位部骨折を減少させる。けれども不快感などから装着のコンプライアンスは高くない。

5. 自己効力感を高めるケアマネジメント

高齢者自らがゴールを設定し、それを実現できるように支援する介入で効果の証明されたものはない。筆者らは脊髄小脳変性症患者を対象としたランダム化比較試験により電話によるコーチングが自己効力感を高めることを示した [3]。同様の介入が高齢者に及ぼす効果について、医学・心理学・倫理学・社会学など様々な観点からの検討が必要と思われる。

引用文献

1. 辻 一郎：介護予防のねらいと戦略。pp23-31, 46-61, 社会保険研究所、東京、2006
2. Bischoff-Ferrari HA, Willett WC, Wong JB, Giovannucci E, Dietrich T, Dawson-Hughes B: Effect of Vitamin D on falls: a meta-analysis. JAMA 291:1999-2006, 2004
3. 出江紳一、安藤 潔、小野眞史、鈴嶋よしみ、道又 顕、福原俊一：神経難病患者へのコーチング介入効果—ランダム化比較試験—。リハ医学 42 suppl : S302, 2005

第 84 回 定時総会議事録

日 時：平成18年5月31日（水）18：30～

場 所：医師会3階講堂

○黒羽根議長：私、今回から初めて議長を務めますので、慣れない点も多いとは思いますが宜しくお願い致します。報告の形式も今までとは若干変わっております。

それでは、鶴岡地区医師会第 84 回定時総会を開催致します。最初に資格確認をお願い致します。

○佐藤局長：それでは資格確認についてご報告致します。会員総数 185 名、内 18:30 現在で出席されている方は 34 名、委任状を提出されている方は 112 名、合計 146 名、よって総会の成立に必要な過半数の出席を満たしましたので、本総会は成立致しました。以上です。

○黒羽根議長：どうもありがとうございました。それでは改めて開会を宣言致します。

続きまして中目会長よりご挨拶をお願い致します。

○中目会長：皆さんこんばんは、4 月から会長職を務めることになりました中目です。

まず始めに本日の総会に、お忙しい中多くの先生方にご出席いただきまして心から感謝申し上げます。私の方針は、めでいかすとる 4 月号に掲載したことが全てで、あとは有言実行あるのみです。

今日の総会は決算総会です。数字だらけの無味乾燥な決算が主旨になるわけですが、メリハリをつけ少しでも会員の先生方に理解していただきたいと、各担当理事はスライドを使い分かり易くお話をする努力を致します。また、昨夜はリハーサルを行っております。我々執行部は本総会に際しまして、会員の先生方との一体感を共有するという一点で準備してまいりました。その点をお含みいただきまして、是非、今日の総会を有意義なものにしていきたいと思っております。

また、会の最後には皆様からのご意見を伺

う時間帯も設けました。是非、自由に忌憚無い意見をお伺いして、今後の医師会活動の運営の参考にさせていただきたいと思っております。今日の総会は、先生方に時間的にご迷惑をお掛けしないということで、小気味良く議事を進行するという事になっておりまして、私に与えられた時間は4分間となっております。より具体的な話は明日の観桜会の席上とさせていただきます。

それでは、新理事の選出、決算並びに医師の職業規則等につきまして、何卒ご審議の程宜しくお願い致します。

○黒羽根議長：どうもありがとうございました。それでは恒例に従いまして、議事録署名人の選出に入りたいと思っております。どなたか希望される会員の方はいらっしゃいますか。いないようですので、こちらから指名させていただきます。石原融先生、犬塚博先生宜しくお願い致します。

それでは、早速議事に入りまして、鶴岡地区医師会理事2名増員につき選挙の件について、中目会長より趣旨説明をお願い致します。

○中目会長：前回もお話ししましたとおり、医師会の事業内容が非常に広範囲にわたりました。そこで現時点での理事の人数では、役も多くなり仕事量も多くなってきたということから、2名増やすことが医師会としての適正人数ではないかということで、ご了解を得まして県に申し出をしていたところ、過日承諾を得ましたので、本日の総会で理事2名を選出していただきたいということでありませう。宜しくお願い致します。

○黒羽根議長：候補者として、灘岡壽英先生、上野寿樹先生の両名が挙げられております。他に候補者がおりませんので、両名を当選人として宜しいでしょうか。賛成の方は挙手をお

願ひ致します。

－ 挙手多数－

○黒羽根議長：どうもありがとうございました。

それでは、灘岡壽英先生、上野寿樹先生の両名が新理事として選出されましたことを皆様にお知らせ致します。

灘岡先生は都合により欠席ということで、上野先生より一言ご挨拶をお願い致します。

○上野寿樹先生：このたび選出されました上野と申します。なにぶん若輩者ですので、諸先生方のご指導を宜しくお願い致します。

○黒羽根議長：どうもありがとうございました。次に平成 17 年度会務報告を行いたいと思います。三原副会長、宜しくお願い致します。

○三原副会長：会員関係等について原案により説明する。

○三原副会長：それではここで、昨年お亡くなりになられた奥山雄一先生、向後雄大先生のご冥福をお祈りして、黙禱を捧げたいと思います。議長、宜しくお願い致します。

○黒羽根議長：それでは全員起立をお願い致します。奥山雄一先生、向後雄大先生、両先生のご冥福をお祈りして、黙禱を捧げたいと思います。黙禱。

－ 一同黙禱－

○黒羽根議長：どうもありがとうございました。

○三原副会長：引き続き各会議関係等について原案により説明する。

○黒羽根議長：時間の関係で、今回は三原副会長が一括して報告するという形にしております。これについて追加したい担当理事はいらっしゃいますか。

○鈴木理事：検診部担当の鈴木です。資料の 15 ページをご覧ください。ここには検診部の事業が列挙されております。その中で、講演会・人間ドック個別相談会という項目があります。これは平成 17 年度から新規に行ったもので、6 月から年度末まで 3 回ほど施行しました。その内容については、その都度めでいかすとする誌上でご報告申し上げたところで

すが、各回とも大変好評で今後とも続けていく予定であります。すでに平成 18 年度の日程も決まっております。なお事業を施行するにあたり例年のことながら諸先生方からは並々ならぬご協力を賜り、ここに改めて深く感謝を申し上げますとともに今後とも宜しくお願い申し上げます。以上です。

○黒羽根議長：どうもありがとうございました。他に追加される担当理事はいらっしゃいますか。

○上野理事：臨床検査部の上野です。毎年、皆様にはご報告させていただいておりますが、臨床検査の命であります精度管理を日本医師会に依頼してチェックさせていただいておりますが、昨年度もほぼ A 評価と非常に高い評価をいただいております。今年度もより多くの会員の先生方に医師会臨床検査部をご利用いただきたいと思っております。以上です。

○黒羽根議長：どうもありがとうございました。その他にいらっしゃいますか。

○竹田理事：18 ページをご覧ください。3 行目ですが、これは今春から始まっている介護予防のモデル事業、昨年から引き続きでありますが無事終了致しました。これにつきましては、役員の中から土田副会長と上野理事にご参画いただきまして貴重な意見をいただきました。両先生に御礼申し上げます。

もう一点、山形県病院協議会リハビリテーション専門部会ですが、これは昨年度に引き続きまして当病院が主催でありました。テーマとしては、摂食嚥下リハビリという少し地味な演題を選びましたので、あまり参加者がいないのではないかと思ったのですが、予想に反しまして会場を変更しなければならぬほどの参加がありました。当病院からは、栄養士の阿部弘子と OT の佐久間香里がシンポジストとして出席しております。以上です。

○黒羽根議長：どうもありがとうございました。その他にいらっしゃいますか。

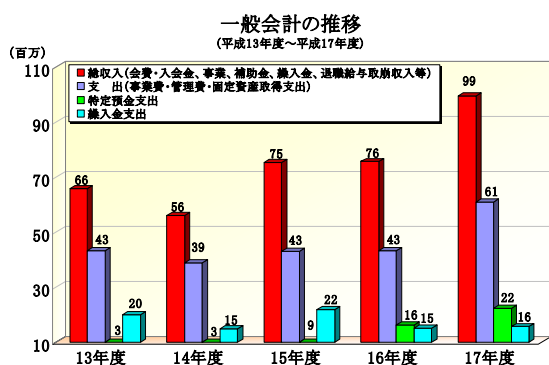
会員の方で、質問のある方はいらっしゃいますか。無いようですので次の議題に移りま

す。

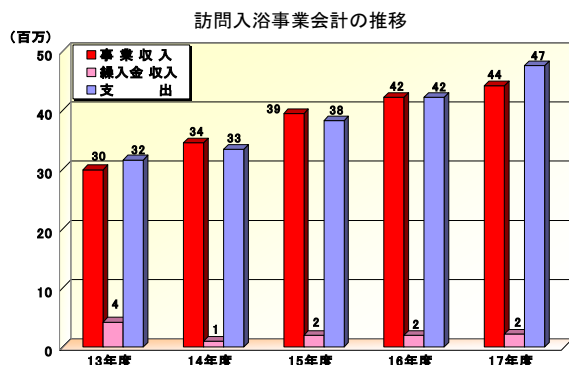
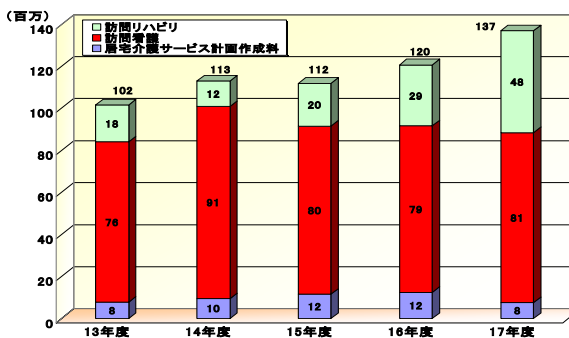
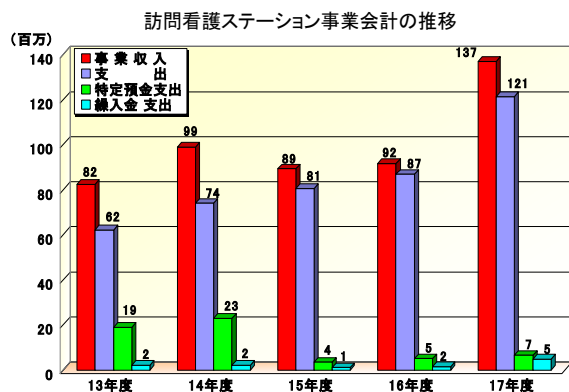
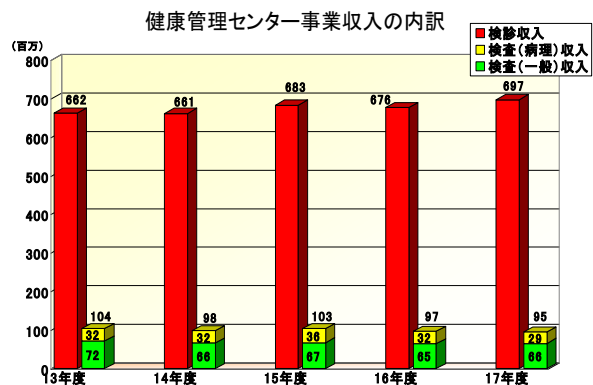
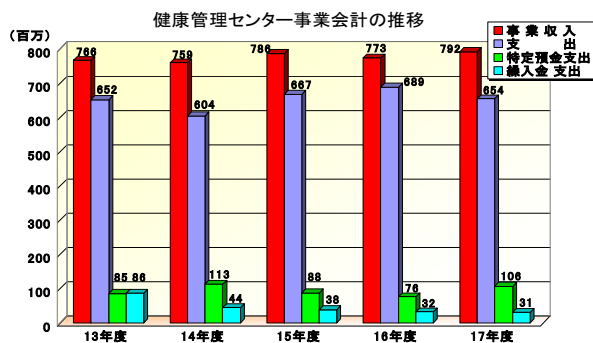
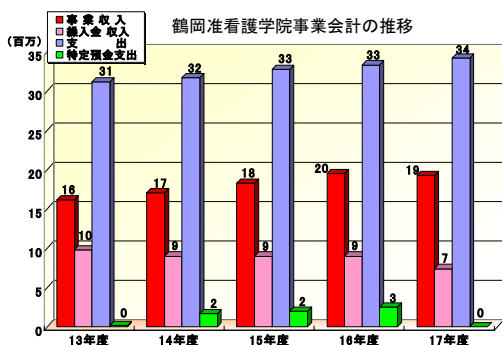
平成 17 年度決算承認の件を行いたいと思
います。各部の説明を行います、少し形式が
変わっておりますので、ご覧になっていただ
きたいと思ひます。各部の説明が終わりまし
たら、それぞれ質問を受け付けますが最後に
一括でも受け付けます。

最初に一般会計収支計算書、中里理事お願
い致します。

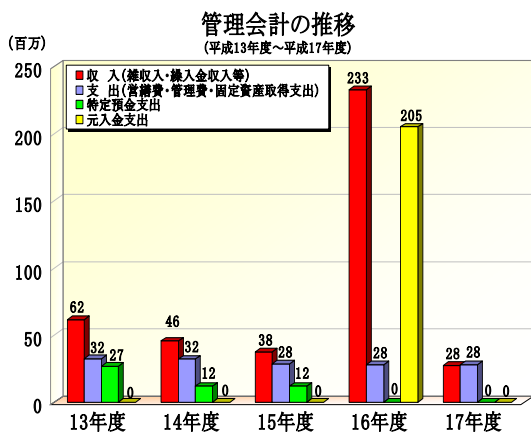
○ 中里理事：一般会計の収支計算書について原
案により、過去 5 年間の推移についてスライ
ドにより説明する。



○引き続き、鶴岡准看護学院事業会計収支計算書
について (横山理事)、健康管理センター事
業会計収支計算書について (上野理事)、指
定訪問看護ステーション事業会計収支計算
書・指定訪問入浴介護事業会計収支計算書・
ケアプランセンターふきのとう事業会計収
支計算書について (土田理事)、管理会計収
支計算書について (中里理事)、湯田川温泉
リハビリテーション病院・医師会事業会計収
支計算書について (竹田理事)、介護老人保
健施設みずばしょう事業会計収支計算書に
ついて (岡田理事)、原案により、過去 5 年
間の推移についてスライドにより説明する。



- 挙手多数 -

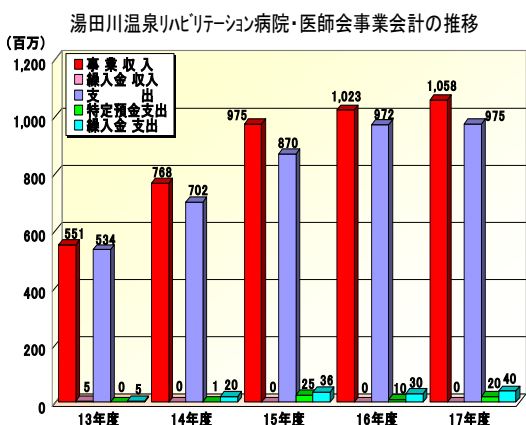


○黒羽根議長：承認多数と認めました。どうもありがとうございました。

次に、鶴岡地区医師会医師の職業規則(案)について、三原副会長より趣旨説明をお願い致します。

○三原副会長：原案により趣旨説明する。

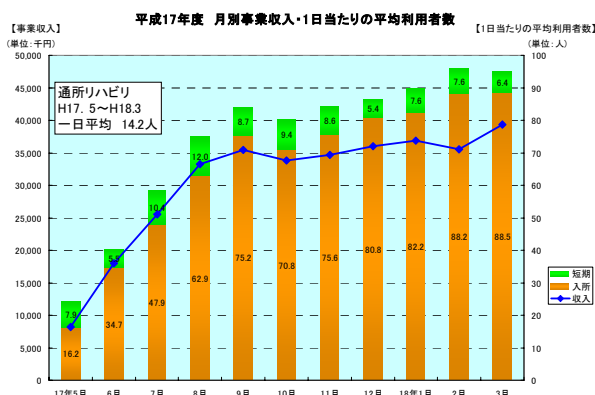
○黒羽根議長：どうもありがとうございました。今の趣旨説明に対し、ご意見のある方はいらっしゃいますか。



○丸谷紘一先生：第3章の第17条は診診連携のことだと思うのですが、以前に会員向けの医療機関情報というものがありませんし、新規開業された方の情報もわかると非常に良いと思います、今後配布する予定はあるのでしょうか。

○三原副会長：データも少し古くなりましたので、改訂版の作成を検討しているところです。

つきましては、専門医ごとに作成しておりますので、こういった情報を公開すれば良いのか等も含めて検討させていただきたいと思います。



○黒羽根議長：丸谷先生、宜しいでしょうか。その他、どなたかいらっしゃいますか。

○齋藤壽一先生：内容はこれで良いと思いますが、いわゆる罰則規定といえますか、この規則に違反した場合ということには全く触れていないのですが、例えば著しく逸脱したような場合には裁定委員会を経て、何らかのペナルティを科すのか。そのあたりはどのようにお考えでしょうか。

○黒羽根議長：どうもありがとうございました。ただいまの報告に、ご質問ありませんでしょうか。平成17年度の決算報告が行われ、それぞれについて質問を受けましたが、全般的なことについて、また各部門で聞き漏らしたことはありませんでしょうか。

○三原副会長：附則にも記載してありますが、本規則を運用する為の運営委員会を、第三者を交えて設置するという事になっていきます。具体的なメンバーはまだ決まっておりますが、改定が必要であったり、違反者が出た場合にはどのような対応をするかは委員会で考えていこうと思っております。

それでは、この決算報告についての監事の監査報告を齋藤監事より宜しくお願い致します。

○齋藤慎監事：監査報告書により報告する。

○黒羽根議長：どうもありがとうございました。それでは、平成17年度決算承認の件について、承認なさる方の挙手を求めます。

○齋藤壽一先生：裁定委員会との整合性は。

○三原副会長：運営委員会が裁定するという事

になります。

○齋藤壽一先生：裁定委員会との関係がはっきりしないと、裁定委員会はいらぬのではないかとなくなってしまうのではと思うのですが、いかがでしょうか。

○三原副会長：医師職業規則運営委員会規程（案）というのがありますが、この中の第2条3番目に規則遵守のための管理監督という項目を設けておりますので、この委員会の中で議論できるのではないかと考えております。

○齋藤壽一先生：しかし、定款上ではそういった場合には裁定委員会の議決が必要であると思いますので、そこの整合性をはっきりさせないと混乱するのではないかと考えております。

○三原副会長：定款も調査の上で、整合性が取れるように検討したいと思います。

○黒羽根議長：その他、ありますでしょうか。

それでは、検討する点もありますが、承認を受けたいと思います。鶴岡地区医師会医師の職業規則（案）について、承認される方は挙手をお願い致します。

－ 挙手多数－

○黒羽根議長：どうもありがとうございました。次に、協議に移りたいと思います。どなたかいらっしゃいますでしょうか。

○佐久間正幸先生：報告とお願いがあるのですが、今週の月曜日に県の禁煙推進委員会に出席してきました。皆様ご存知の通り、4月からニコチン PTS の指導料が保険適用になり、明日から PTS が保険適用になるということがあり、現場でも混乱が起きてくるであろうと思われまふ。そこで県医師会としては、どこの医療機関で禁煙指導が可能かというアンケートを実施しますので、ご協力をお願い致します。わからない点が非常に多く、厚生労働省から Q&A が出ないと対応できないと思いますので、その上で県の禁煙推進委員会で対応したいと考えています。

お願いですが、庄内地区の小、中学校はほぼ敷地内禁煙になってはいますが、残るは県立

高校だけなので、出来ましたら校医の先生方から進言していただきたいと思ひます。それから、私は今あちこちの小、中学校、高校に行き防煙教育の授業を行っていますが、出来れば校医の先生方からやっていただきたいということと、それについて医師会から積極的に係わっていただきたいと思ひます。

○中目会長：ただいまの案件ですが、学校医の先生に是非防煙教育をやっていただきたいということで、小、中学校校長の集まりがあり、そこから正式に医師会への依頼が来ております。小児科の先生方は概ね担当されておりますが、一部の内科の先生や小学校医の先生にはこれから交渉していきたく思ひます。それから、養護教諭の先生にもお願いして半々くらいにすれば負担が軽くなるのではないかと学校医の先生のご意見もありますので、養護教諭の先生方にも協力をお願いして進めていきたく思ひますので、宜しくお願い致します。

○黒羽根議長：その他、ありますでしょうか。医師会活動への提言等がありましたらお願いしたいと思います。

○犬塚博先生：今回の総会は、スライドを交えて非常にわかりやすく最後まで聞けましたので、次回も是非こういった形で進めていただきたいと思ひます。

普段思っていることですが、今、医療は在宅にという形で私も訪問看護、リハビリ、入浴等を利用してはいますが、現場の人達と我々会員と話し合う場がなかなか無いと思ひます。例えば、私と訪問看護師さんは指示書で繋がっており、メールなども致します。たまに訪問して現場で話をすることもありはしますが、患者さんを診るにあたってその辺のコミュニケーションがしっかりと取れていないと、今後点滴をしたり看取ったりすることに関して、意思の混乱があるのではないかと感じる時がありますので、話をする機会を設けていただきたいと思ひます。

もう一つは、この間の勉強会で羽越本線脱

線事故についての報告がありましたが、あのような大災害時に当医師会はどのようにまとまって活動していくのか。また、開業して数年になります。緊急連絡網というのが一度も回ってきたことがありません。普段の訓練が非常に大事であったと、日本海病院の加登先生もおっしゃっていましたが、今後どのようにしていく予定なのでしょう。

○土田副会長：一点目についてお答えします。犬塚先生は、ケアカンファレンスのようなものをお考えなのでしょう。

○犬塚博先生：例えば、在宅の点滴、褥瘡の問題、経過栄養エンシュアの使用等、保険のしぼりがよくわからないのです。その辺も、現場で働いている看護師さん、ドクターとの話し合いの場があっても良いと思います。そういった場で、栄養状態の改善に対する治療法等を勉強したいのです。

○土田副会長：つまり、主治医と訪問看護ステーション、訪問リハビリ、訪問入浴等の全ての人間を交えて在宅医療に関する勉強会を不定期、若しくは定期的に行って欲しいと考えて宜しいのでしょうか。それでは、前向きに検討したいと思います。

○佐久間正幸先生：今の件についてですが、最近ケアカンファレンスを行いたいというお話が結構来るのですが、実際どのくらいの頻度で行っているのかがピンと来ないのです。私の場合、朝日と榊引になるのですが、朝日は頻繁に来ますが、榊引はあまり来ません。実際にどのくらいであるのか教えていただきたいのですが。

○土田副会長：全体としてどのくらい実施しているのか、朝日と榊引のそれぞれの対応については把握しておりません。個人的な感覚としては、朝日はかなり会いたがる、榊引はこちらの都合を聞かず予定だけ決定し、文書だけでも構わないというような対応が多いような気がしていました。朝日は、家族や介護のキーパーソンも含めてこちらから出向くので、いつ頃都合が良いのかといった聞き方が

多いですね。それを統一しなさいと言うのもなかなか難しく、全体を把握するのも難しいのですが、榊引にはもう少し考えていただきたいと思っております。

○佐久間正幸先生：実際、行くと良い話が聞けたりますので、時間が許すのであれば積極的に行って欲しいと思います。

○土田副会長：他の先生方の経験等もお話いただければ、大変参考になると思います。

(他の先生方の発言なし)

○黒羽根議長：犬塚先生のご意見の後半の部分、緊急事態が発生した場合の対応について、石原理事お願い致します。

○石原理事：医師会緊急連絡網の見直しが一点と、庄内空港の災害に対する協定書の見直しがあると思います。この間の事故のような場合、医師会というよりは病院が主導を持つというのが正しいと考えています。地震等の大災害の場合には医師会がどういう役割を果たすのかということを行行政と会議を設け、地域でのシミュレーション及び訓練を実施したいと考えておりますが、まだ準備段階です。

○黒羽根議長：その他、ありますでしょうか。

○中目会長：私の方から、現時点での総合保健センターに関するお話をさせていただきます。初めて耳にする先生も居られるかと思いますが、市町村合併による国からの資金で市では総合保健センターを創設するという構想があり、齋藤前会長より当会の検診部門を入れて欲しいという話をしておりました。前会長からの引継ぎ事項でありましたので、私に代わってから二度、お話を聞きました。場所はNTTの資材置き場で、鶴岡拘置所と鶴岡建設の間に決定したそうです。ただし、第三学区のコミセンも入るとのことで、我々に提示された場所は500から600㎡と非常に狭い場所でありました。現在の当会1階は900㎡ありますので、基本的に2,000㎡、最低でも1,500㎡ぐらひは欲しいと要求しました。

ところが、庄内病院脇にマンションが建ちましたが、周辺にマンションが沢山建っては

困るということで、その地域に3階建て以上のものを建設してはいけないという条例を市が作ったそうです。それで、我々は4階建てにしスペースを広げてくれないかというお願いをしていたところ、その法律に抵触するということです。今は、スペースをどの程度確保できるのかという交渉をしているところです。基本的に、2011年の春には完成するという案で進んでいますので、今年の8、9月あたりには入るか入らないかの決定をしなければなりません。進捗状況は以上です。

○黒羽根議長：その他、ありますでしょうか。

○石橋学先生：私も数年前まで担当しており、本来であれば議案のところでお尋ねすべきことかも知れませんが、臨床検査の件で、開業医からの受託収入が年々減少傾向にあることに対して、どういった対応策をお考えでしょうか。なお、私が担当した当時は、新規に開業される先生で電子カルテを使用される方が多く、医師会のシステムと上手くマッチングしないということがネックだったのですが、今現在もそこがハードルであるのか、他に色々なことが考えられるのかということです。

もう一つは、今日の出席率は近年まれに見る高出席率ですが、総会と懇親会の兼ね合いについて、活性化委員会でも議論されていたと聞いておりますが、今後どのようにされるおつもりなのでしょうか。

○黒羽根議長：前半の質問について、上野理事お願い致します。

○上野理事：ご指摘があったとおり、受託検査は少しずつ減少しております。大きな理由としては、石橋先生がおっしゃったとおり、電子カルテを導入されている先生に直結した報告が出来ないということが一番の問題であります。今すぐに個々の先生方に対応していくというのは、膨大な資金が必要であることから、現実的には不可能であると考えております。それから、保険点数が年々下げられているということも収入減につながっており

ますし、また病理の検体数減少も原因の一つであります。この一つの要因は、患者さんの大病院志向で開業医での検診を控えているという噂も聞いております。

そういったこともあり、先日、検査部門の職員と担当役員でヒアリングの場を持ちました。そこで検討したところ、過去十年間で検査機器だけで1億3,000万ほど費やしております。この費用は、受託検査だけではなく、検診や人間ドック等にも貢献しておりますので、一概に高いとは言えないかも知れませんが、その他に試薬費用もかかっていますので、検査機器の維持・更新を含めて何とか経費節減が出来ないかと考えております。ただし、受託検査を今すぐ取り止めるということは不可能ですので、経費等を削減出来る方策を積極的に検討していこうと話し合っているところです。検診部門の血液検査も含めれば、検査課の人件費を支払っても黒字ではありますが、少なくとも受託検査収入の落ち込みを何とか抑えなければならないということは重々認識しておりますので、より良い方向に持っていけるように検討したいと思っております。以上です。

○黒羽根議長：後半の質問について、お願い致します。

○中目会長：私の方にも、何人かの先生から二日続けてはしんどいというようなお話もありましたし、例え一日おきになったとしても辛いということがありますので、質問等をメールやFAXで事前に受け付けまして、出来るだけ時間を短縮し同日開催出来る方法を模索したいと考えております。この間、酒田地区医師会に招待されたのですが、酒田の場合、6時から7時まで総会、その後懇親会という形でしたので、参考にしたいと思います。

先ほどの臨床検査の件について追加ですが、医師会の料率が5割から6割と非常に低いわけですが、SRLや保健科学等の他社がそれに合わせているのです。ですから、ある意味では医師会を利用していない先生方にも

貢献しているのだ、という職員の声がありましたので代弁させていただきます。

○黒羽根議長：他にありませんでしょうか。私も初めてで、不慣れな点がありましたが、1時間半ほどで終了することが出来ました。これをもって、鶴岡地区医師会第84回定時総会を終了致します。どうもありがとうございました。

(午後8時 閉会)

なお、総会后において、三役、監事の申し合わせを行い、定款第12条の規定に基づく会長の専決処分により、前会長の齋藤壽一先生を当会顧問とすることを決定しました。したがって、これまでの顧問の渡部直哉先生並びに佐藤克己先生とならんで顧問は3名となります。

YBCラジオ番組「朝だ！元気だ！6時半！！」収録体験記

中村秀幸

収録は山形市旅籠町の山形放送会館で行われるため、鶴岡は厳冬期を避け5月から6月の気候の穏やかな時期となっております。今年は鶴岡からは、表にある先生方にお忙しい中出演をいただきました。実のところ私も以前は、この時間帯はラジオを聞く習慣もなく、起床時刻前後でした。出演が決まってからは新聞を読み、寝覚めのコーヒーをすすりながら、放送を楽しみにすることとなりました。

緊張しやすい私の経験では、最初の月曜日で「胃に蝶々」状態、心拍数は頂点を極め、あがりは最高潮に達していました。曜日毎のポイントやキーワードのメモを片手に、前半はウォーキング、後半は庄内で生を受け成長した自分自身を振り返ることとなりました。

幸いしたのは番組の途中に入る曲がスタジオ内にも本番と同じように流れ、緊張をほぐしてくれたことでした。公共の電波で好きな5曲もリクエストできるなんて最初で最後でしょうね。フリーの奥山知寿子アナと途中で雑談や冗談を言い合う頃には収録も終わりを迎えていました。ちなみに彼女は、YBCの日曜の昼12時から3時間のオールリクエスト生番組「オーレ オーレ」を持っています。横浜出身の綺麗な方です。

鶴岡での出演の先生方の放送も聞かせていただきましたが、やはり意外な発見があったのは後半の趣味や生立ちの部分ですね。普段は聞けない、身近にいる先生の意外な趣味や経歴も知ることができ、患者さんや市民のみならず同僚、会員の先生方も楽しめたのではないのでしょうか。

担当の加藤ディレクター（元 YBC, 現在はフリー）も、好感のもてる優しい方です。収録の日時も、お忙しい先生方の予定に合わせ、診療が終わってからの時間や土日の収録など、あらかじめ調整できました。私も5月7日（日曜）の午後4時から2時間程度で、20分程度の簡単な打ち合わせのあと、本番はあっという間でした。

「朝だ！元気だ！6時半！」 月曜日から金曜日まで 朝6時30分～6時45分

放送日	出演者	テーマ
5月8日～5月12日	島田高志先生（島田クリニック）	芸術と精神病
5月15日～5月19日	三井盾夫先生（三井病院）	産婦人科よもやま話
5月22日～5月26日	中村秀幸先生（中村内科胃腸科医院）	春だ、歩こう、ウォーキング
5月29日～6月2日	真家興隆先生（鶴岡協立病院）	疥癬について
6月5日～6月9日	竹田浩洋先生（湯田川リハ病院）	リハビリについて
6月12日～6月16日	長島早苗先生（宮原病院）	糖尿病治療のキーワード

故 阿部武先生のご冥福をお祈り申し上げます。

平成18年6月19日午前6時46分死亡 享年95歳

弔 辞

謹んで鶴岡地区医師会会員 阿部 武先生のご
霊前に会員を代表して弔辞を捧げ、深く哀悼の意
を表します。

先生は、先月26日以来、荘内病院に入院され、
その後、日々のご容態いかばかりかと、我々会員
一同ご案じ申し上げていたところですが、さる19
日の朝、病院関係者の看護治療とご家族のご加護
の甲斐なく、卒然と永眠されました。

私どもは、優れた大先達を失い、当地域医療界
においても大きな痛手であり、また、ご家族・ご
親戚の方々におかれましても悲しみは、いかばかり
かのご推察申し上げます。

先生のお人柄やこれまでのご功績を承知され
ている方にとっては、誠に痛惜の念に耐えないと
ころであり、医師会会員をはじめ職員一同、心か
らご冥福をお祈り申し上げます。

顧みますと、先生は昭和11年に栄えある東北
帝国大学医学部を卒業され、直ちに同学部に所属
されると在籍のまま、兵役と解除を繰り返し、昭
和18年に再び同大学に復帰されると、内科医と
しての本業に取り組まれました。

その後、日本医療団・左沢診療所長や国立療養
所・左沢所長などを経て、昭和22年11月に阿部

医院を開業されました。以来、60年近きにわた
って先生は、営々と地域の医療と保健衛生のため
尽力されました。

また、この間に、当会会長を6年、副会長を4
年、理事を4年。通算して役員を14年間歴任さ
れ、さらに学校医としても活躍され、学校保健功
労賞を受賞されるなど、当時の社会的情勢の極め
て難しい時期に活躍され、当会運営の手綱をとっ
ていただいた功績は、誠に大きかったと思います。

このように各分野において尽力された先生の
活力の源は、ひとえに先生ご自身の卓越したお人
柄によるもので、医師会で勉強会を開催したとき
は、先生はいつも率先してご出席して下さった
ことは、まだ記憶も新しいところであります。ま
た、先生は、私の大学の恩師である山形 徹一教
授と同級生であることから、私は先生にはよく声
をかけていただき、面倒をみてもらいました。

同様に、私の思い出に残っていますことは、私
が開業した当時は、内科小児科懇話会をはじめ、
数多くの講演会がありました。先生は、1回も欠
席することなく、すべての講演会にご出席され、
長老ということもあられありますが、最後には必ず
謝辞をお話しになる、というのが恒例でありまし
た。講演会の内容を正しく把握・理解され、ユー

モアたっぷりにお話しになるお姿は今も忘れられません。おそらく6～7年間は、阿部先生の謝辞というスタイルが続いたものと記憶しております。

我々、医師会としても、いろんな意味で清風を吹き込んでいただき、活力を与えていただいたと思っております。

今、先生もご案内のとおり社会は急速に少子高齢化時代に遭遇し、地域における医療・保健・福祉の在り方が大きく変わろうとしており、改めてその方向性が問いただされております。医療を提供する側と、そのサービスを受ける側にわだかまりがあってはなりません。

そういう意味では、こういう情勢を乗り切っていくためにも、先生のご遺志と情熱を受け継いで、決意を新に地域医療の向上に邁進していきたいと思っております。

私どもを、これまでどおり影ながら見守っていただけたら幸いと存じます。

本日のご葬儀にあたり、心からご逝去を悼み、先生の輝かしいご功績とご遺徳を偲びながら、ご冥福をお祈り申し上げ、お別れの言葉とします。

どうぞ、先生、安らかに眠りください。

平成18年6月22日

鶴岡地区医師会

会長 中 目 千 之

平成 18 年度春季キスつり大会

佐藤 賢

6月25日に、毎年恒例のキス釣り大会が開催され、21名の愛好家が集いました。

私は久々の新鮮さに気合十分でした。

早朝5時出発で、私のグループ10名は三瀬海水浴場へ向かいました。心地よい景色のなか、早速仕掛けを準備し力いっぱい竿を振りかざしました。間もなく仲間がヒットし歓声に沸きました。一方私は、隣の人と糸を絡ませ意気投合していました。

あまり釣れないようなので、小波渡方面へ移動し、雷屋旅館裏の防波堤で釣ることとなりました。海面を覗くとグリーン海水が透き通っていて、一面の砂地が間近に見えました。私にもツンツンとあたりが出始め、最後まで慎重にリールを巻きました。

あまりに慎重になり過ぎたせいか、結構疲れしました。私たちのグループだけで総数50匹以上釣ったと思います。

～賢のお勧めの店～

昼食に向かった先は、由良コミセンとホテル八乙女の間にあるラーメン屋‘みさと’です。1年くらい前にオープンしたそうですが、非常にインパクトの強いメニューを発見しました。

‘スペシャルラーメン’です。醤油ラーメンとステーキのセットです。鉄板に乗っかり、ジュ〜ジュ〜と音をたてたステーキの厚さは2センチ、200グラム以上あったと思います。そのボリュームで値段は930円。由良方面にお出かけの際は、是非ご賞味下さい。1日限定20食とのことです。

陽に浴び、程よく疲れた体をラーメンと水で癒しました。酒で癒す愛好家もいました。

近況の話題で盛り上がりましたが、興味深かったのは検診課 菅原君の話です。彼は前日、43cmのメジナ(写真右下)を釣ったそうです。フィッシング庄内の店長も稀に見る大きさとのことでした。

センターに到着し、午後3時から計量を開始。温海方面のグループは不調だった様子で、私のグループが上位を独占しました。釣り場をチョイスしてくれた御橋次長に感謝しつつ、賞品を頂きました。滅多に獲れない栄誉と思い、帰りに100円ショップで賞状の額を購入しました。現在、私の部屋には優勝の‘のし紙’が飾られています。

釣りは自分のペースでできるところがいいと思います。釣りをしながら食すもよし、寝るもよし。初心者でも優しく教えてくれる方が大勢いますので、興味のある方は是非参加してみてください。

優勝	佐藤 賢 (11匹)	大物賞	佐藤 洋司 (23.8cm)
二位	若木 敬一 (8匹)	小物賞	山下 哲司 (8.2cm)
三位	御橋 慶治 (8匹)	珍魚賞	佐々木幸一 (メゴチの子)
四位	佐藤 洋司 (7匹)	珍魚賞	清和 聡彦 (メゴチの子)
五位	佐々木幸一 (6匹)		



人間ドック結果個別相談会・講演会

平成18年度健診結果個別相談会、講演会は、今年度人間ドックをお受け頂いた方々にご案内を出しており、結果相談会には今回も多くの方々よりご参加いただきました。参加者の中からは、また機会があったら来たいとの感想もあり、スタッフとして嬉しく思いました。

続いての講演会は、中目千之先生、黒羽根洋司先生をお招きして行なわれました。

先にお話頂いた黒羽根先生は、『歩かなければ歩けなくなる』という題目での講演となりました。

先生は、筋肉を貯めるという表現で『預筋』という表現をご使用になりました。また、自分にあった運動、歩行の重要性をお話いただきました。

中目先生は、『うつ病』『人間ドックでわかること』という題目での講演となりました。うつ病の種類、対処法の知識は知っておく必要があると感じさせられました。人間ドックは、症状の出していない病気を『早期』の状態で見出すのが目的であるとお話されました。早期での発見であれば治る確率がかなり高く、早い状態での発見の重要性を教えてくださいました。

先生方への質問としては、『ガンは遺伝するのか』や、『日々の過ごし方』など、意見が多く交わされました。皆様の関心の高さを感じた講演会となりました。

(管理課 清和 聡彦)

6月29日(木)

個別結果相談会

16:30 25名

講演会

18:30 38名

中目千之先生

黒羽根洋司先生



マイペット&マイホビー

—第35回—

松浦 優

野良猫もペット？

このページは毎号感心して読ませて頂いている。執筆される皆様に羨望を覚え、これといって何もない自分を嘆きながら……。

ところで、野良猫はペットというのだろうか。無趣味は趣味といえるのだろうか。仕事は趣味になりうるのだろうか。私にはわからない。わからなくてもいい。わかったようでわからないのが世の中だし、人なのだから。

おかげさまでわかな内科医院も20年になる。この20年の間、どういうわけか野良猫が絶えない。もともと猫も犬も大好きだったが、若い頃に可愛がっていた犬と猫に死なれたことが悲しくて、積極的に「飼う」気持ちになれなかった。「飼う」かわりに野良ちゃんと「つき合う」という接し方になった。

昼食の時に医院の庭によるよると入り込んできた黒っぽいオス猫。茄子の煮付けをほうったところガツガツ食べ始めた。茄子を食べる猫は初めて見た。その後毎日来るようになって、魚や肉類なら何でもは食べるが茄子は二度と食べなかった。「吾輩は猫である。名前はまだない」の連想から、以来その猫の名前は「漱石」となった。

その後にくたのが「内蔵助」。普段はソノソと緩慢な動きでどこか茫洋とした態度だが、喧嘩となると滅法強い。まるで大石内蔵助のよう……。

「お花はん」が4匹の子猫を連れてやってきたのはある年の初夏の頃。でも、いつかお花はんと2匹の子猫が消えてしまい、真っ白なメスの「お龍^{りょう}」さんと茶色の水玉模様があるオスの「チャー」が残る。

翌年お龍さんが庭のどこかで子供を4匹

生んだ。その子猫も、3か月ほどで2匹の姿が見えなくなった。残ったオスの2匹が部屋の中に入り込んでくるまでに馴れたが、それでも私の心が「飼う」ことを認めなかった。足先とお腹が白い黒猫、目がクリクリとして短足、どこか落語の「熊さん」的なので「熊五郎」と名づく。薄いねずみ色で目の縁にくっきりと黒いくま取りがあり、歌舞伎役者のようにハンサムな方は「助六」

オス猫は時折数日、長い時は1か月以上も寄りつかなくなる事がある。その度に、百人一首にある在原行平の「たち別れいなばの山の峰に生ふるまつとし聞かばいま帰りこむ」を紙に書いて貼り出す。この短歌を門口に貼っておくとオス猫はかならず帰ってくると昔から云われているオマジナイ。

飼わずに「つき合う」だけでも悲しい思いはする。チャーが交通事故、少し経って助六は毒殺(?)で死んだ。私はワアワア声を上げて泣いた。2年ほどして、お龍と熊五郎がこつ然と姿を消して2度と姿を見せなくなった……。

今いるメスの「ノラ」は1才位の時に飢えて庭に入り込んできた。餌をほうってやってもなかなか警戒して側に寄らなかったが、何日かそんなことを繰り返しているうちに警戒しながらも手の届くところまで近寄ってくるようになる。「こきたねえ猫が庭さ來てるの」と雑役の男性職員に云われたそのノラが、今は首輪をはめて寝食を共にしている。職員に「こきたねえ」と云われたことで、かえって「つき合う」から「飼う」に気持ちが切り変わったのかもしれない。「ノラ」は私の最後の「飼い猫」になるだろう。名前が悪

かったのか、なかなか野良の性格が抜け切れないが私にだけはきわめて従順である。



助六・熊五郎



お龍さん

極楽とんぼ

当院では年に4回「わかな医院だより」というA4・8ページのミニ新聞を出してもう43号になる。その中に「皆様のページ」という1ページがあって、自作の川柳・俳句・短歌・詩など、来院される皆様から投稿していただいたものを掲載している。

時折投稿が少なかった時など、編集担当者から「先生、今回は短歌を2首お願いします」とか俳句を4句とか空きスペースを埋めるための要望がくる。

もともと俳句や短歌など本気で勉強したこともないし、趣味でもない。でも、その要望が強固なので仕方なくそれらしいものを作って出すことがある。恥ずかしいのでペンネームを使う。私のペンネームは「松浦とん

ぼ」

ある1時期、私用で出かけて診療時間になっても医院に戻らない時がしばしばあった。そんなある日、ある職員から「極楽とんぼ今日はいずこの葉末かな」という1句をもらった。これを私のペンネームにした。ここに拙歌拙句を少々。

手足萎え伏して生きてし四十余年
病子に紅さす母の春かな
懐かしき日々あり忘れたき日々も
六十五年の色は何色

夢は行き現身ばかり梅雨葵
星しげく虫の音はたとと止む
轟々と時が流るる夜長かな

何とマアすべてが中途半端なのだろう。まともなものが何もない。今また夢中になって種から花やトマトを育てている。こんなことでまともなトマトがなるのかな、と心の中で思いながら。ホントに私は極楽とんぼ……。

エー（A）会員になりました

—新規開業医紹介— No. 4

神経科クリニックを始めて

島田クリニック 島田 高志

ぶっちゃけた話、初めは開業する気は全く無かったのです。小生、山形大学医学部4期生なのですが、同期の中でみんながもし順番に開業していくとしたら最後に残るのは島田か、H田君（すんごい楽屋落ちで失礼）のどちらかだろうと思われていたくらいなのです。それに開業する前にいた鶴岡病院も、大変居心地良く気に入っていたのです。んじゃ、なぜ？と言うとこれが、はっきり思いの丈を言ってしまうと各方面に物議をかますので言いにくいのです。しかし、「ぶっちゃけた話」と前置きしているので一寸だけ言わせて頂くと某自治体病院の医師の給料カット問題に端を発しているのです。某自治体の（って・・・もう鶴岡病院って言っちゃってるんですけど。…市立か県立かわからない某地方病院・・・って、どうしてもわかっちゃうか・・・）お役人との、医局側の交渉役をおおせつかって、その融通の利かなさにかつとなってしまったのです。某プロ野球球団オーナーが「たかが選手ごときに」と言って響感を買いましたが、まるでそんな調子。「たかが医者ごときに財政問題の何がわかる・・・」と言う感じなのでした。株を所有して経営権を持っているオーナーが言うならまだしも、お役人の方々は自分で金を出しているわけでないのです。税金の使い方の優先順位という問題なので、「単独では病院は赤字だから」という理由で予算を、しかも医者給料から削ると言うのはどんなものか。「自治体財政については素人の医者の言う事は聞けん。」という態度で埒が開かず、怒って後先考えず飛び出して、開業してしまったというところなのです。



診療時間	9:00~12:00
	14:30~18:00
休診日	月・水・金午後、日
※月曜日	17:30~20:30
第1・3	グループ心理療法
第2・4（5）	外来診療

神経科の通常の開業形態を「クライアント中心療法」とかいうような言い方をしますが、普通は来院される患者さんを一人ずつ診察する訳です。しかしそれまで病院で診療していて、入院患者さんたちとレクとかいった形で関わったり、往診などで患者さんの生活の場を観察したり、と言った仕事が好きだったので、開業しても出来るだけ続けたいと思いました。それで、往診も要請があれば出来るだけ行くようにしています。さらに月二回は「訪問看護」としてなのですが、ナースと一緒に単身世帯や、病的体験が強くて家族が関わりに苦労している

患者さん、自閉してしまって外に出ない患者さん、などの家庭をまわっています。入院設備の無いクリニックで集団の患者に関わるというのも方法的に難しいのですが、狭い部屋を何とか利用してグループセラピーも月二回やります。サイコドラマと言う、即興劇を利用した集団療法を行なおうとして始めたのですが、そこは集団力学の妙と言いますか、集まってこられる患者さんたちが本来のサイコドラマの形を、島田クリニック方式に変えてきてしまったと言う感じで、今はサイコドラマとセルフ・アサーションと SST を混ぜたような（そう言っても何だかわかりにくいですが・・）独自の集団療法になっています。集団療法は「診療上知りえた事実について守秘義務のある」医療関係者、学生、に対してはオープンでやっていますので、興味のある方はのぞきにきて下さい。



私のお勧めの店

その9

横山 靖

漫画『美味しんぼ』の中で山岡と海原雄山が鮎の天ぷら対決をする場面がある。食するのは二人の友人でもある京極さん。山岡は評価の高い保津川の鮎を選ぶ。京極さんはおいしいと喜ぶ、がしかし、次に海原雄山の鮎の天ぷらを食べた京極さんは、涙を流しながら次のように言い放つ、「なんちゅうものを食わせたんや！！何十年か前に食べた記憶があるで。これに比べると山岡さんの鮎はカスや」。この鮎は京極さんの故郷、四万十川のものだった。前置きが長くなったが、今日書こうと思うのはラーメンである。世代によっては中華そば、年輩の方なら支那そばと云った方がしっくりくるのでは。私は断然、中華そばという世代である。なぜ中華そばのテーマに書こうというのに『美味しんぼ』の話題を出したか？ラーメン・ブームに乗り、全国のラーメンが入り乱れ、味を競い合う現代に育った若者たちは別として、私たちの世代は小さい頃から地元の食堂の中華そばの味を何の疑いもなくおいしいものとして食べてきた。だから、私にとっては最高の中華そばといえば、温海の食堂のものである。これが自分が生まれ育った味であり、この中華そばは祖父母や父母たち家族との思い出と一緒にしているものなのである。ということで、ここで冒頭の漫画のエピソードとつながるのであるが、高尚な四万十川の鮎と中華そばを一緒にさせては漫画の原作者は怒るかもしれない。私の好きな中華そばは、個人的な懐かしさと思い出に彩られたものだから、皆さんにお勧めすることはできないのである。しかし、これでは何のための原稿なのかと読者のみなさまにも怒られてしまう。そこで中華そばではないが、それに手を加えたラーメンならおいしいと思える店がある。このお店は、土田先生もお好きだそう。庶務課の菅原由紀さんも、行こうと思ってるけどいつも行列で入れない、とボヤいている。そのお店は大山の『尾浦』さん。

私のお勧めは『肉味噌ラーメン』。ちなみに味噌ラーメンではないのであしからず。『尾浦』さんの醤油ラーメンにはサッパリとコッテリがあり、それぞれどちらかに肉味噌を入れるのだ。私としては肉味噌自体がコッテリしてるので、サッパリ醤油に肉味噌を入れるのがお勧めである。そうすると、サッパリの醤油スープにグッとコクが加わる。甘く煮られ、タツプリ盛りの肉味噌は麺とよくからみ美味である。さらに『肉味噌ラーメン』ではチャーシューはサイコロ状に小さく切られているので、2口に1回程度はチャーシューが麺にはさまってくるので、肉味噌とチャーシューと麺が混然となった一際の美味を味わえる。ただ、困ったことにこの店は菅原さんの言うようにと～っても混んでいるので行列覚悟で。また忙しいので主人も厨房の中でスタッフを怒鳴っている。でも客には親切で、うちの娘のラーメンを作るのを忘れた時には、娘のラーメン代をタダにしてくれた。それから量もとっても多い。余計なお世話かもしれないが、女性の方なら小盛でもいいかもしれない。

尾 浦

住所 鶴岡市下川西谷地 1- 2
TEL 0235- 33- 1855



肉味噌ラーメン

表 紙

「何の花？」

齋藤 慎

春に藤の花が咲く頃に、甘い白粉のような匂いのする花です。

30数年前の姉の結婚式で、父がもらった花を挿し木にしたら根付いた花です。

父も名前がわからなかったようでした。葉の形から推測すると「ガマズミ属」らしいですがご存知の方がいましたら教えてください。

～ 編集後記 ～

齋藤 憲 康

今年度から編集委員の末席に加わらせて頂きました齋藤憲康です。

会員の皆様に少しでも役に立てるめでいかすを編集出来ますように微力ながら頑張るつもりですので宜しくお願い致します。

さて、本誌が皆様方のお手もとに届く頃には、サッカーワールドカップの優勝国は決定しているでしょう。予選リーグのときには、サムライジャパンへの応援もあり、非常な盛り上がりを見せていましたが、日本チームの予選敗退が決定すると、とたんに空気の抜けた風船のように熱気が冷めてしまったのは私だけでしょうか？熱し易く冷め易いのは日本人の特徴ですが、「JR羽越本線脱線事故」の講演会では、初期対応と災害時の対応について、医師会員として決して忘れることなく常に緊急の事態を想定して備えることがいかに大切であるかを実感させられました。

今回の定時総会では会計報告をこれまでになくグラフを用いて分かりやすく解説してあります。これは中目会長や理事の努力のたまものですので、いつもは飛ばし読みする会員も多いと思いますが、ちょっと目を留めて見て頂ければ幸いです。

医療環境は、最近増々厳しさを増しております。療養型病床の削減は、湯田川病院を始め多くの病院に待ったなしの対応を迫っております。私が所属している産婦人科も逆風の矢面に立たされており、新入医局員の減少と女医さんの増加、医師減少による病院の分娩からの撤退、多くの医療事故訴訟。少子化対策を声高に唱えながら財政的な手当は全くない現状と、数年先も見通せない状態となっております。せめて5-10年後の医療はどうなるのか、そして希望を持って仕事が出来るとようなグランドプランができないのでしょうか？

編集委員：中村秀幸・伊藤末志・齋藤憲康・五十嵐裕・福原晶子・岡田恒人

発行所：社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町 1- 34

TEL 0235- 22- 0136 FAX 0235- 25- 0772 E-mail tsurumed@mwnet.or.jp

URL <http://www.mwnet.or.jp/~tsurumed/>

印刷所：富士印刷株式会社 鶴岡市美咲町 27- 1 TEL 22- 0936(代)